

下野市立緑小学校

1 学校課題

共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成
～児童が興味を持続し、思考の深まりを実感できる授業の工夫～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度まで、学習課題を自分のこととして継続的に意識しながら学習を進めていけるような導入の工夫や、自分の考えを深めるための話し合い活動の設定、児童が学びの深まりを実感できるような授業展開や教材の工夫・開発について研究してきた。その結果、児童の必要感に迫る教材開発や授業展開の工夫について一定の成果が見られた。また、ICTを活用することにより、児童の興味・関心の持続や学び合いによる思考の深まりなど、その有効性に期待感が持てた。今年度は、昨年度までの研究の成果を生かしながら、ICTを活用することにより、児童の単元全体を見通した課題意識や必要感に結び付くような授業展開の工夫について研究していくこととした。

新学習指導要領実施2年目となる今年度は、研究主題の「共に学び合い、高め合い、認め合う児童」の姿を、「主体的・対話的で深い学びのある学習」という授業像やそのときの児童一人一人の姿と重ね合わせて再認識していきたい。それを実現するために、今年度児童一人一人に一台貸与されるタブレットを活用した授業デザインを具現化し、教師に必要な授業力、児童の学力、それらを繋ぐ環境や教材開発などについて追究していきたい。

3 研究内容

(1) 「学級力」の向上と、互いの考えを出し合い学び合える学習集団づくり

今年度も、全学級で「学級力アンケート」とその結果を可視化したグラフを基に、自クラスのめあてを話し合う活動を定期的に行った。特に今年度は、自クラスの良いところを見つめ、更に伸ばしていくという視点で話し合いを行った。

(2) タブレットを効果的に活用し、児童の課題意識・追究意欲の持続と

思考の深まりにつながる授業展開の工夫

昨年度、ICTを活用した授業に取り組んだ際、互いの考えを共有し、新たな課題意識や追究意識につながる場面を見出すことができた。そこで今年度は、一人一台のタブレットを活用し、理科の実験動画の撮影や、体育の技能習得場面などで、何度も繰り返し視聴しながら考えたり、他グループと比較したりすることにより、思考を深められるような授業展開を工夫した。



他グループの実験動画と比較して考える

(3) 児童の必要感から見出した課題を継続的に生かし、学びの過程や児童自身の成長が分かる授業展開の工夫・開発

児童の単元全体を見通した課題意識や必要感に結びつくような授業展開の工夫として、めあての確認と、課題に対する振り返りを継続していくことに重点を置いた授業展開を行った。具体策として、一時間の授業を大切にしていけるためにも授業の始まりにはめあての確認を、終わりには振り返りを継続して取り組んだ。

振り返りの視点を示すシート (児童のノートに貼る)

理科の授業の流れ

- ①問題 ○〇だろうか、
- ②予想 問題に対する予想
「〇〇だと思う。なぜなら〇〇だからです。」
理由の部分は
①これまでに学習したこと ②自分の生活で経験したこと などをもとに考える、
- ③仮説 予想をもとに考える、
「もし〇〇(予想の部分)ならば、〇〇(実験の方法の部分)をすれば、〇〇(実験の結果の部分)になるはずだ。」
→実験の方法につなげる、
- ④方法 そろそろ条件やかえる条件を確認しよう、
より正確に実験する方法を考えよう、
- ⑤実験 方法を確認してから実験しよう。予想と比べてどう確認しよう、
- ⑥結果 アイマーク！目で見たことだけを記録しよう、
- ⑦考察 ハートマーク！結果から見えること・実験に対する自分の考えをまとめよう、
「結果が〇〇だったので〇〇は〇〇と考える」
- ⑧結論 問題に対する答えを書く、
- ⑨振り返り ①今日学んだこと・新しく知ったこと・おどろいたこと、
②予想と比べてどうだったか、

(4) S&U コラボ事業に関わる授業研究を通じた主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
8/2	講師による師範授業	理科「ものものとかた」	<p>【講話内容】</p> <p>(1) 宇大付属小での学びの個別最適化につながるタブレット活用例の紹介。タブレットで理科実験の様子を動画で撮影し、複数グループの実験を比較することにより、思考を深める手段としての活用の仕方。</p> <p>(2) 「予想」と「仮説」、「結果」と「考察」の違いを明確にして書き分けること、「問題」から「結論」までの授業の流れを組むことにより、科学的な見方・考え方を育てる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>講師による教員を対象とした模擬授業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「水のあたたまり方」 実験の動画撮影</p> </div> </div>
12/16	5年生	理科「ふりこのきまり」	<p>(1) 単元の導入において、ブランコ遊びの動画を撮影し、児童とともに問題を共有し単元を貫く課題を設定する。</p> <p>(2) 実験の様子を撮影し、考察を書く前に動画をもう一度視聴して実験結果を確認することにより、児童の問題意識を高め、よりよい考察文につなげる。</p> <p>(3) 授業の振り返りの視点を児童に示し、振り返りを書きやすくするとともに、次時の学習への課題意識につなげる。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> <p>実験動画を見ながら 考察を考える場面</p> </div>  </div>

(5) 全教員による、一人一授業研究

全教員が、自身の専門または得意とする分野の授業を提供し、課題に迫る取組を行った。授業を提供する際は、統一の略案シートを活用して教材研究を行い、授業実施前に全教員に配布し、それぞれ可能な時間に参観した。参観後は「振り返りカード」を授業者に提出し、略案シートと共に掲示して全体で共有した。また、保護者にも学校での取組を紹介できるよう、個人情報などに配慮して掲示した。

4 本年度の成果と課題

<成果>

- (1) 「学級力」の向上について、良いところに目を向けることにより、自クラスへの関心の高まりと帰属意識の向上が見られ、学び合える学級集団づくりの手応えを感じることができた。また、学級力の向上に取り組むことにより、学業指導への効果を実感することができた。
- (2) 一人一台タブレットの導入に合わせ、児童の思考を深めるための授業での活用を理科だけでなく、体育や音楽など多数の場面で試みるなど、学校全体でタブレット活用への意識を高めることができた。また、教員が各教科等でタブレットを積極的に活用することにより、児童のタブレット活用技能が飛躍的に向上した。
- (3) 振り返り際には、振り返る視点を児童に示すことにより、課題意識の継続や児童自身の成長を知る手がかりとなった。

<課題>

- 理科における実験は、実際場面を直接観察した方が効果的な場合があるなど、タブレットの活用が、児童の学びを深めるために有効な場面とそうでない場面があり、授業者が活用場面をしっかりと見極める必要がある。
- 児童の ICT 活用技術の向上に伴い、情報モラルの指導を同時に行っていく必要がある。